

地質図を用いた商品開発のすすめ

その1 地質図商品のコンセプト

齋藤 眞¹⁾

近年,日本でもジオパークの活動が盛んになってきました。しかし,ジオパークないしジオパークを目指す地域において,訪れた人々がその感動を持ち帰ることのできる商品(土産物)はほとんど無いのが実情でしょう。よく見る土産物としては,その地域の名前を冠したお菓子や名勝の絵をつけた饅頭などではないでしょうか。

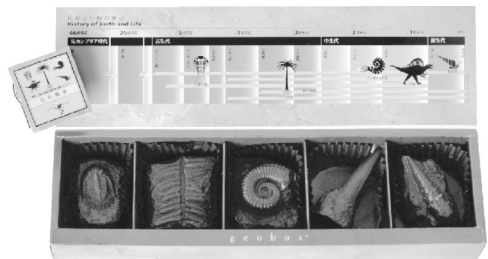
私は2008年の「地質の日」を記念して発売された化石チョコレート(利光ほか,2009,写真)の開発に携わりました。そのコンセプトは,「自然史系博物館などで得られる地質(特に化石)に関しての感動を自宅,職場などに持ち帰って,話の種にしてほしい,すなわち地質の話をも博物館から持ち帰ってほしい」ということでした。

しかし,我々産総研地質調査総合センターの主力アウトプットである地質図を使った商品開発例はこれまで「屋久島の地質」ポスター(小笠原ほか,2008,屋久島でも販売中)くらいしかありませんでした。

地質情報の塊である地質図について,我々地質図幅を作っている立場からは,土産物ではなく,政府や地方自治体が政策として行う国土の利用(土木,環境,災害など)のための基盤情報や,民間のさまざまな立地に関する基礎情報,また資源開発の基礎情報として活用してほしいと思っています。しかし,行政で地質情報を扱うことのできる人材は,現在では極めて少なく,地質情報が十分に活用されていないと思われます。

我々の足元の基礎情報である地質情報ですが残念ながら一般の方々には敷居が高いようです。この状況を改善していくにはそれぞれの地域の人々の身近なところに地質図などの地質情報があることが第一歩で,そこから行政をはじめとして,それぞれの地域で地質情報が活用されるようになることを期待したいと思います。近年日本でも始まったジオパークは,地質情報を用いて地域に新たな価値を生む活動ですので,一般の方々が地質情報に近づくチャンスが増えます。そういった機会をとらえて土産物などの商品という形で地質図が活用されることによって,一般の方々が地質に関心を持ち,地質図などの地質情報が社会に浸透していくことを期待します。

一方,私は数年前にお付き合いのあるデザイナー



の方から,地質図はカラフルで,自然の作り出したデザインであるという感想を聞きました。地質の専門家とは全く違った観点でしたので,目から鱗の落ちる思いであったとともに,既に地質図を使った布製品のアイデアがありましたので,心強く感じました。そこでプロトタイプとして作成したのは,アイロンプリント紙を利用して作った地質図Tシャツでした。アイロンプリントは専用紙にインクジェットプリンタで裏返しに印刷したものをアイロンで布地に転写するものです。ただ洗濯するとひび割れてよれよれになってしまい,イベント時の1回限りのTシャツにしかなりませんでした。

しかし近年,顔料系インクジェットプリンタで使用できる布地(inkmax“魔法の布”)が開発され,また,オリジナルTシャツをインクジェットプリンタで印刷できるサービス(例えば富士フィルムDesign Garden)もできました。また,印刷業界でもインクジェットプリンタで布地に印刷できるシステムを備えたところもでてきました。

そこで,これらの仕組み,素材を利用して,いくつかの商品例を作成しましたので,次号からノウハウと商品開発例を紹介していきたいと思います。

文献

- 利光誠一・齋藤 眞・森尻理恵・青木正博・古谷美智明(2009):地質の日記念グッズ「化石チョコレート」。地質ニュース, no.653, 46-49。
小笠原正継・齋藤 眞・下司信夫・長森英明(2008):屋久島の地質-世界遺産の島,四千万年の歴史-,地質標本館グラフィックシリーズ, 9。

Saito Makoto (2010): Recommendation of product development using a geological map.

1. Concept of geological map goods

<受付:2010年5月11日>

キーワード:地質図,商品開発,コンセプト,布製品,化石チョコレート

1) 産総研 地質情報研究部門